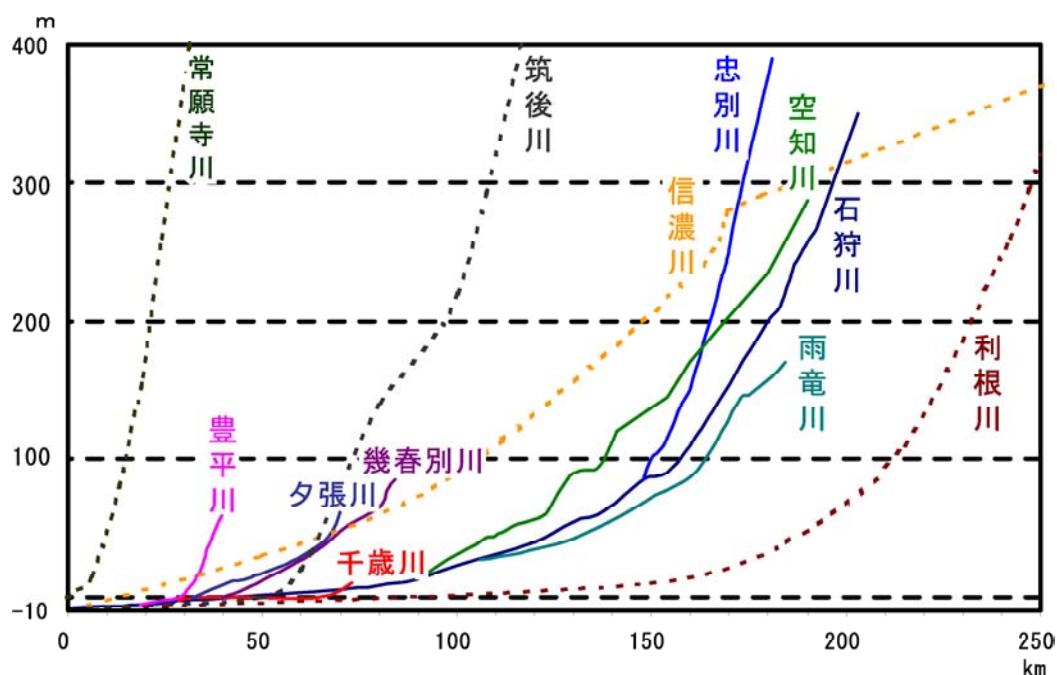


8．河道特性

石狩川は、流路延長 268km、流域面積 14,330km² に及び、北海道総面積の約 17%を占める、利根川、信濃川に並ぶ我国屈指の大河川である。流域内には 48 市町村が存在し、流域内市町村人口は、ほぼ北海道の総人口の約 54%にあたる 3,088,447 人となっている。

石狩川の名前は、アイヌ語の「イ・シカラ・ペツ」（非常に曲がりくねった川）に由来している。石狩川は、現在、捷水路事業を中心とする治水事業や自然短絡により、中・下流域に三日月湖が数多く残されており、「イ・シカラ・ペツ」の名にふさわしく、過去に広大な低平地をゆったり流れて、洪水氾濫を繰り返してきた河川である。

このような石狩川は、その源を石狩岳（1,967m）に発し、多くの溪流を集めながら、大雪ダムを経て層雲峡の峡谷を刻み、上川盆地に至って忠別川、美瑛川などを合流した後に神居古潭の狭窄部に入る。やがて北海道随一の穀倉地帯であり、産業・文化の中枢でもある、石狩川中・下流域の石狩平野を潤すに至る。石狩平野に入ってから、支川雨竜川、空知川、幾春別川等を合わせながら悠然と南西に流れ、更に夕張川、千歳川を合流する江別市付近で流れを大きく北西に変え、豊平川、当別川を合わせて石狩市地先で日本海に注いでいる。



※建設白書 2000 版を基に作成

図 8－1 主要河川の縦断形状

8－1．石狩川の河道特性

①上流域

石狩川は、石狩岳にその源を発し、大雪ダムに至るまでの約 15km の区間は溪流の状態となっている。大雪ダムより下流は、大雪火山群の軽石流により形成された溶結凝灰岩を削った溪谷となっており、これを越えてからは、河岸や中洲に針広混交林が密集した自然環境豊かな河床勾配 1/100 以上の単列状態の河道を流下する。その後、河岸に落葉広葉林やヤナギ林など豊かな樹木群が生育している。河床勾配 1/120～1/170 の単列で礫質の河道となっており、愛別発電所取水堰下流から有堤区間になる河道を流下して、流れを南西に変え旭川市を中心として広がる上川盆地に入る。

上川盆地は、主として扇状地性の砂礫質の沖積平野であり、この区間は、河床勾配 1/220～1/650 程度で上流側が複列砂洲河道、市街地区間は両岸護岸が整備され、単列の砂礫河道となっており、瀬・淵が多数存在する。上川盆地の下流端に近い位置で忠別川が合流し、単列砂洲河道を約 10km にわたって流下して、神居古潭の峡谷に入る。

神居古潭峡谷は、夕張山地と天塩山地の境界に石狩川をせき止めるように隆起した神居山地を浸食し形成された峡谷で、神居古潭帯の火成岩類が露出する河道となっている。



菊水橋(KP200.40)付近



愛別地区(KP185.00)付近



旭橋(KP157.20)付近



神居古潭(KP139.00)付近

※写真出典：北海道開発局

②中流域

神居古潭より下流は、石狩平野の北端にあたり、河道は河床勾配 1/850 程度の単列砂州河道で砂礫の河道となっており、河岸は、ヤナギ林の河畔林が連続しており、瀬や淵のある多様な河道となっている。北空知頭首工から下流は、有堤区間に入り、河岸の多くはヤナギ林となっている他、エゾイタヤ・シナノキ群落が点在する状況となっている。河床勾配は 1/1,200～1/1,500 で瀬や淵のある砂礫の複列河道となっており、途中で雨竜川を合わせながら約 35km 流下して空知川が合流する。



納内橋(KP130.00)付近



妹背牛鉄道橋(KP113.50)付近



雨竜川合流点(KP105.50)付近



石狩川橋(KP94.00)付近

※写真出典：北海道開発局

③下流域

この区間での河道はかつては大きく蛇行を繰り返す形態を持ち、河川の氾濫によって河道沿いに自然堤防を形成すると共に、その背後に後背湿地を形成し、この未分解堆積物が、広範な泥炭地帯を形成している。

現在の河道は、数々の捷水路工事により低水路がほぼ固定された有堤河道となっており、幾春別川合流点までの区間は、河床勾配 1/3,000 程度の単列の砂礫河道であり瀬・淵が点在する。更に下流は海面以下の河床高になり、河床勾配 1/5,200 程度の緩やかな流れとなっている。

夕張川を合わせた後、河口から約 30km の千歳川合流点付近から感潮区間に入り、その後流れを北西に変え、道都札幌市を貫流する豊平川を合わせたのち、河口から 4km 付近で日本海に並走して日本海に入る。感潮の河道は、低水路河岸にヤナギ林が点在し、100m 以上の広い水面の単列砂洲河道となっており、緩やかに蛇行しながら部分的に淵が見られる河道となっている。



奈井江大橋 (KP76.80) 付近



美唄川合流点 (KP64.00) 付近



夕張川合流点 (KP31.00) 付近



石狩大橋 (KP26.60) 付近

※写真出典：北海道開発局

8－2．忠別川の河道特性

忠別川は、流路延長 59.2km、流域面積 1,062.6km²を有し、流域内には、旭川市、東神楽町、東川町、美瑛町の1市3町が存在する。

①上流域

忠別川の源流部は大雪山国立公園となっており、大雪山連峰の白雲岳（2,230m）付近に源を発し、羽衣伝説のある天人峡の渓谷へと進み、忠別ダム（建設中）へと至る。

峡谷部は樹木に覆われた溪流となっており、溪流性の魚類や森林性の鳥類などが多く生息し、自然環境が豊かな河道となっている。



志比内橋 (KP25.80) 付近



東神橋 (KP15.60) 付近



東聖橋 (KP11.60) 付近



大正橋 (KP6.20) 付近

②下流域

忠別川は忠別ダム（建設中）から上川盆地の水田地帯を緩やかに蛇行して流れ、ポン川、美瑛川を合わせ、旭川市街で石狩川に合流する。

この間の川幅は 170～340m、水面幅は 10～90m 程度となっている。河床勾配は 1/80～1/350 程度であり、河床は礫から構成されている。河道は複列砂州河道と単列砂州河道が交互に現れ、河畔にはヤナギ林が見られる。

河道内には瀬・淵が点在しており、市街地の高水敷では公園が整備され利用されている。

8－3．美瑛川の河道特性

美瑛川は、流路延長 67.6km、流域面積 717.6km²を有し、流域内には、旭川市、美瑛町の1市1町が存在する。

①上流域

美瑛川の源流は大雪山国立公園となっており、十勝山系のトムラウシ山(2,141m)付近に源を発し、白金温泉街、不動の滝といった景勝地の溪谷を進み上川盆地の水田地帯へと至る。

上流部は樹林に覆われたけ溪谷となっており、溪流性の魚類や森林性の鳥類などが多く生息し、自然環境の豊かな河道となっている。



KP45.00 より上流付近



美瑛川橋梁(JR)(KP31.60)付近

②下流域

美瑛川は、溪谷部下流から、上川盆地にはいり、美瑛市街を流れ、置杵牛川を合わせた後、溪谷部にはいる。この間の川幅は100～180m、水面幅は5～50m程度となっている。河床勾配は1/60～1/130程度であり、河床は礫から構成され、河道は単列砂州河道を呈している。

溪谷部を北上し、辺別川、雨粉川を合わせたのち、旭川市街で忠別川に合流する。この間の川幅は100～300m、水面幅は10～70m程度となっている。河床勾配は1/230～1/300程度であり、河床は礫から構成され、河道は単列砂州河道を呈している。

河畔は、ヤナギ林が主体となっており、溪流区間では落葉広葉樹に囲まれている。河道内には瀬・淵が点在しており、市街地の高水敷では公園が整備され利用されている。



辺別川合流点(KP13.40)付近



忠別川合流点(KP2.00)付近

※写真出典：北海道開発局

8－4．雨竜川の河道特性

雨竜川は、流路延長 177km、流域面積 1,722.3km²を有し、流域内には、深川市、妹背牛町、秩父別町、雨竜町、北竜町、沼田町、幌加内町の 1 市 6 町が存在する。

①上流域

雨竜川の源流部はブトカマベツ川とよばれ、天塩山地の内ピッシリ山地に属する相志向岳（896m）付近に源を発し、雨竜第一ダムにより生まれた朱鞠内湖に注ぎ込む。朱鞠内湖を過ぎてからは、ウツナイ川、朱鞠内川を合わせ、南北に細長い峡谷をつくり北から南へと流れる。更に流下しながら、周囲に発達した谷底平野を蛇行しながら、十三線川、五線川、浅瀬川、雨煙別川を合わせたのち、幌加内盆地に至る。

②下流域

雨竜川は、幌加内市街を流れ、雨煙内川を合わせた後、幌加内川の合流点付近で西におおきく迂回し、峡谷部にはいる。この間の川幅は 140～250m、水面幅は 15～80m 程度となっている。河床勾配は 1/300～1/600 程度であり、河床は礫から構成されるが、所々に岩河床が存在している。河道は複列砂州河道と単列砂州河道が交互に現れ、河岸にはヤナギ林やエゾイタヤ・シナノキなどの落葉広葉樹林が見られる。

峡谷部を南下し、鷹泊ダムに至った後、雨竜川は、再び流路にそって形成された谷底平野を南に流れ、幌内川を合わせたのち、多度志川合流点付近から石狩平野の北端にあたる秩父別原野にでる。この間の川幅は 200m、水面幅は 15～130m 程度となっている。河床勾配は 1/600 程度であり、河床は礫から構成されているが、所々に岩河床が存在している。河道は幌加内川より上流で複列砂州河道、下流で単列砂州河道を呈しており、河岸にはヤナギ林が点在する。



蛇竜橋付近



清月橋 (KP73.00) 付近



幌加内市街地 (KP72.00) 付近



幌内川合流 (KP45.00) 付近

※写真出典：北海道開発局

多度志川合流後、沼田市街で沼田奔川、秩父別川を合わせたのち、幌新太刀別川合流点に至る。この間の川幅は 250m、水面幅は 30～100m となる。河床勾配は 1/670 程度で、河床材料は礫で構成される。河道は単列砂州河道を呈しており、河岸にはヤナギ林、落葉広葉樹林が見られる。

幌新太刀別川付近から下流の雨竜川は、非常に蛇行の多い区間であったことから、洪水氾濫が繰り返されてきた。このため、多くの捷水路工事が行われて現在の姿となり、周辺には多くの旧川が残っている。この間の川幅は 250～350m、水面幅は 40～140 m程度となっている。河床勾配は 1/1,700 程度であり、河床材料は砂・礫から構成される。河道は単列砂州河道を呈しており、河岸にはヤナギ林が点在し、ヨシなどの湿生植物も生育している。



幌新太刀別川合流点 (KP20.60) 付近



芽生川合流点付近 (KP4.50) 付近



石狩川合流点 (KP105.50) 付近

※写真出典：北海道開発局

8－5．空知川の河道特性

空知川は、流路延長 194.5km、流域面積 2,618.0km²を有し、流域内には、滝川市、砂川市、赤平市、芦別市、富良野市、上富良野町、中富良野町、南富良野町の 5 市 3 町が存在する。

①上流域

空知川は、その上流域をシーソラプチ川とよばれ、上ホロカメットク山（1,920m）南斜面に源をもつシーソラプチ川、日高山脈北部の狩振岳（1,323m）付近に源をもつルーオマンソラプチ川、狩勝山（985m）付近に源をもつベイユルシェベツ川、および佐幌岳（1,060m）西斜面に発源するパンケヤーラ川などが、南富良野町落合で合流して空知川が誕生し、これより幾寅市街を経て金山ダムに至る。

金山ダムをでて、山間の峡谷・溪谷を北流し、山部川を合わせた後、扇状地形にはいる。この間の川幅は 50～180m、水面幅は 20～70m 程度となっている。河床勾配は 1/180～1/250 程度であり、河床は礫から構成されている。河道は単列砂州河道を呈しており、瀬・淵が点在し、河岸にはヤナギ林、落葉広葉樹林が見られる。空知川は、山部市街を過ぎて、布部川を合わせて富良野盆地に入り、富良野市街を流れ、市街の西で、富良野川を合わせる。この間の川幅は 180～380m、水面幅は 10～110m 程度となっている。河床勾配は 1/270～1/440 程度であり、河床は礫から構成されている。河道は単列砂州河道を呈しており、瀬・淵が点在し、河岸にはヤナギ林、落葉広葉樹林が見られる。



村田橋(KP98.60)付近



平和橋(KP80.20)付近



新空知橋(KP68.00)付近

※写真出典：北海道開発局

②下流域

空知川が富良野盆地から石狩平野へ流れ出る下流域の大部分は、夕張山地に発達した大きな溪谷をなしている。この溪谷の特徴は、谷が深く、基盤岩が河床に露出し、河川の流速が速く、滝が見られることである。

空知川は、溪谷を流れながら、滝里ダムに至り、野花南ダムを経たのち、芦別市街に至り、芦別川を合わせ、芦別ダムをすぎ、パンケ幌内川を合わせて、赤平市にはいる。この間の河道は、単列砂州河道を呈しており、河畔にはヤナギ林が連続し、落葉広葉樹林も見られる。

赤平市街付近から石狩平野に入り、北海頭首工に出る。この間の川幅は130～200m、水面幅は50～120m程度となっている。河床勾配は $1/650 \sim 1/1,100$ 程度であり、河床は礫から構成されているが、所々に岩河床が存在している。河道は、単列砂州河道を呈しており、河岸にはヤナギ林、落葉広葉樹林が見られる。

空知川は、北海頭首工を出てから南西に流れ、滝川市で石狩川に合流する。この間の川幅は300～450m、水面幅は50～140m程度となっている。河床勾配は、 $1/870 \sim 1/570$ 程度であり、河床は砂礫・礫から構成される。河道は単列砂州河道を呈しており、平野部の河岸にはヤナギ林が見られる。



野花南大橋 (KP45.50) 付近



赤平橋 (KP17.25) 付近



空知大橋 (KP2.75) 付近



石狩川合流点 (KP90.0) 付近

※写真出典：北海道開発局

8－6．幾春別川の河道特性

幾春別川は、流路延長 58.7km、流域面積 343.4km²を有し、流域内には、三笠市、岩見沢市、北村の 2 市 1 村が存在する。

①上流域

幾春別川は、その源を夕張山地の中でも高度が低く丘陵性山地からなる美唄山地に属する幾春別岳（1,063m）に発し、溪流を集めて北流し桂沢ダム（昭和 32 年完成）に至る。ダム周辺は針広混交林となっており、桂沢ダムをでて、奔別川が合流し平野部に至る間は、落葉広葉樹林に覆われた溪谷で未改修区間である。この間の河岸の崖に砂岩や泥岩に挟まって石炭層が見られる箇所がある。



桂林橋付近



栗丘橋 (KP32.10) 付近

②下流域

幾春別川は、山地から平地へと移行する扇状地形に入り、蛇行を繰り返しながら西に流れる。この区間の川幅は 40～100m、水面幅は 10～40m 程度となっている。河床勾配は 1/150 程度であり、河床は礫から構成されている。河道は単列砂州河道を呈しており、瀬・淵が点在し、河岸にはヤナギ林が点在するほか、山付き箇所ではケヤマハンノキなどの落葉広葉樹が生育している。流れは更に蛇行しながら西流し、市来知頭首工をへて三笠市街に入り、川向頭首工に至る。この区間の川幅は 60～80m、水面幅は 7～40m 程度となっている。河床勾配は 1/240～1/500 程度であり、河床は礫から構成されている。河道は単列砂州河道を呈しており、河岸にはヤナギ林が点在している。



奔幌内橋 (KP29.60) 付近

川向頭首工から石狩平野に入り、岩見沢市街を流れ新川橋に至る。岩見沢市街部は掘り込み河道となっている。この区間の川幅は 80m、水面幅は 10～25m 程度となっている。河床勾配は 1/900 程度であり、河床は砂礫・礫から構成されており、河道は単列砂州河道を呈している。



西新橋 (KP8.80) 付近

※写真出典：北海道開発局

幾春別川は、もともと、大きく湾曲して石狩川に合流していたが、幾春別川切替工事が行われ、昭和36年に完成した新水路により幌達布付近で石狩川に合流する現在の姿となった。

石狩低地の泥炭地を貫流する新水路区間の川幅は120～150m、水面幅は10～30m程度となっている。河床勾配は1/1,000程度であり、河床はシルト・砂から構成されている。河道は単列砂州河道を呈しており、瀬・淵が部分的に見られ、河岸にはヤナギ林が点在している。



中の橋(KP4.80)付近



石狩川合流点(KP43.50)付近

※写真出典：北海道開発局

8-7. 夕張川の河道特性

夕張川は、流路延長 135.5km、流域面積 1,417.1km²を有し、流域内には、江別市、岩見沢市、夕張市、栗山町、栗沢町、南幌町、長沼町、由仁町の3市5町が存在する。

①上流域

夕張川という地名は、アイヌ語の「シ・ユーパロ」（本当の（源の）鉱泉の湧き出るところ）に由来している。

夕張川は、上流ではシューパロ川と呼ばれ、その源を夕張山地の中では急峻な地形からなる芦別山地に属する芦別岳（1727m）並びに夕張岳（1668m）に発し、落葉広葉樹林が広がる山地において、溪谷を刻みながら南に流れ、ペンケモユウパロ川を合わせて大夕張ダムに至る。

大夕張ダムから、流れを南西に転じ山間を流れ、清水沢ダムを過ぎて志幌加別川が合流する。志幌加別川合流点付近から、夕張川は再び南に流れ紅葉山付近で大きく蛇行して山間溪谷に入り、まもなく西へと流れを変え、風光明媚な千鳥ヶ滝、竜仙峡に出る。千鳥ヶ滝の地層は、砂岩と泥岩が交互に重なり合っていて、砂岩泥岩互層といい、軟らかな泥岩は浸食が早く凹部となり、硬い砂岩は逆に凸部となり、1～数mの幅で凹凸が流下方向に並んでいる。雨霧橋を過ぎてまもなく、流れは北西に転じ、川端ダムに出る。

②下流域

夕張川は、川端ダムを過ぎて平野に入り、ここから阿野呂川合流点付近にかけては河岸段丘が発達し、川幅は 200m、水面幅は 25～90m 程度となっている。河床勾配は 1/450～1/630 程度であり、河床は礫で構成されている。河道は複列砂州河道から単列砂州河道を呈しており、多くの淵が見られ、河岸にはヤナギ林が連続しているほか、山付き箇所ではエゾイタヤ・シナノキなどの落葉広葉樹が生育している。阿野呂川合流点を越えてからは、由仁町、栗山町を流下し、清幌床止めに至る。この間の川幅は 250～550m、水面幅は 20～110m 程度となっている。河床勾配は 1/1,000～1/1,300 程度であり、河床は、礫、砂・砂礫で構成されている。河道は複列砂州河



こうしょう橋付近



千鳥橋付近



多良津橋 (KP34.00) 付近



夕張橋 (KP25.00) 付近

※写真出典：北海道開発局

道から単列砂州河道を呈しており、河岸にはヤナギ林が見られ、その背後は、牧草地の他、落葉広葉樹林となっている箇所も見られる。

清幌床止を経て、幌向川を合わせ、江別市において石狩川に合流する。夕張川は、元々千歳川（江別川）の支川で、清幌床止上流より流れを南南西に転じ、現在の旧夕張川を経て夕張太で千歳川に合流していた。現在の河道は新水路として掘削されたもので、大正9年からの治水工事により、約11kmを開削して千歳川と切り離し、石狩川に合流させたものであり、昭和11年に通水し現在の姿となった。

この区間の川幅は550m、水面幅は30～85m程度となっている。河床勾配は1/1,700程度であり、河床はシルト・砂から構成されている。河道は単列砂州河道を呈しており、淵が所々に存在し、河岸にはヤナギ林と草地が混在している。



清幌床止 (KP8.75) 付近



夕張川橋 (KP3.25) 付近



石狩川合流点 (KP31.00) 付近

※写真出典：北海道開発局

8－8．千歳川の河道特性

千歳川は、流路延長 108km、流域面積 1,245.6km²を有し、流域内には、千歳市、恵庭市、江別市、北広島市、南幌町、長沼町の4市2町が存在する。

① 上流域

千歳川は、その水源を支笏洞爺国立公園の中核をなす支笏湖に発し、支笏湖を出て、支笏噴火堆積物で構成される台地を刻み、千歳市街に至る。この間は、峡谷・渓谷で、周囲は針広混交林や落葉広葉樹林に覆われており、自然環境の豊かな河道となっている。



千歳橋 (KP44.40) 付近

② 中流域

千歳川は、千歳市街に入ると、単断面河道となり、川幅は 40m、水面幅は 30m 程度となっている。河床勾配は 1/440 程度で、河床は砂礫・礫から構成される。河道は単列砂州河道を呈し、淵が見られるようになる。祝梅川合流後、田園地帯をゆったり流れ、漁川を合わせたのち夕張川の旧川である旧夕張川を合わせる。この間の川幅は 100～300m、水面幅は 30～80m 程度となっている。河道は単列砂州河道を呈しており、河岸にはヤナギ林が点在している。



千歳市街地 (KP43.00) 付近

千歳市街区域の下流では、河床勾配が 1/6,000 程度と緩く、洪水時には中流域まで石狩川の背水の影響を強く受け、洪水の継続時間も長いため外水氾濫による洪水被害を受けやすい。また、後背地は泥炭層や粘土層からなる勾配の緩い低平地となっており、内水氾濫による洪水被害も受けやすいという特徴がある。



祝梅川合流点 (KP39.20) 付近



漁川合流点 (KP26.20) 付近

③下流域

千歳川は、元々は夕張太にて夕張川と合流し、江別川として石狩川に注いでいた。大正9年からの治水工事により、夕張川は新水路により千歳川と切り離され、千歳川（江別川）は夕張川の旧川である旧夕張川合流後、南幌町を経て江別市に入り、早苗別川を合わせてまもなく石狩川に合流する。この間の川幅は300m、水面幅は30～80m程度となっている。河床勾配は1/7,100程度であり、河床はシルト・砂で構成されている。河道は単列砂州河道を呈しており、淵が点在し、河岸には左右岸共にヤナギ林が見られる。

この区間も緩勾配であるため、洪水時には石狩川の背水の影響を強く受け、洪水継続時間も長い。また、中流部と同様、後背地には低平地が広がり、外水氾濫・内水氾濫による洪水被害を受けやすいという特徴がある。



旧夕張川合流点 (KP17.00) 付近



江南橋 (KP7.00) 付近



石狩川合流点 (KP28.50) 付近

※写真出典：北海道開発局

8－9．豊平川の河道特性

豊平川は、流路延長 72.5km、流域面積 902.3km²を有し、流域内には道都札幌市、江別市、北広島市の 3 市が存在する。

① 上流域

豊平川は、その源を支笏湖洞爺国立公園に位置する小漁岳（1,235m）に発し、エゾマツ・ダケカンバ群落の樹林地の隣接する溪流を集めて北に流れ、V 字形の溪谷をなす豊平峡ダムに至る。流れは更に北上し、温泉地として有名な定山溪に至り、更に下流で定山溪ダムを有する小樽内川が合流する。これより、砥山発電所を経て簾舞に至るまでは溪谷が続く、藤野から十五島公園を経て藻南公園に至るまでは、3 段からなる河岸段丘が発達している。下流側の周辺はエゾイタヤ・シナノキ群落を主体とする樹林地が広がっており、藻南公園付近から札幌扇状地がはじまり、平野部に至る。この区間の勾配は約 1/100 以上の急流となっており、流域の地質が火山岩及び火山砕屑物から成っているため崩壊地が多く、土石流などの災害が発生しやすい。



砥山栄橋 (KP35.80) 付近



藻南橋 (KP23.60) 付近

② 中流域

上流域で山地の岩石を浸食し、礫や砂を運びながら流下した豊平川は、この付近から平野に流れだし急激に流速が衰えるためにそこに礫や砂を堆積させ、札幌扇状地が形成された。札幌扇状地の先端部には湧水があり、サケの産卵場が形成されている。

真駒内川合流点から環状北大橋間の河道は、勾配 1/160～1/370 程度の砂礫河床となっており、大都市を貫流する河川としては希にみる急流河川である。川幅は 140～270m、水面幅は 15～90m 程度で、河道は複列砂州河道で瀬と淵が点在し、河岸にはヤナギなどが点在している。

環状北大橋から雁来橋間は、河床勾配 1/1,800 程度の単列砂礫河道となっている。



豊平橋 (KP14.60) 付近



豊水大橋 (KP9.00) 付近

※写真出典：北海道開発局

③ 下流域

雁来橋より下流は、元々は狭小な河道断面の河道で、緩やかな勾配で蛇行し、現在の合流点より約 6km 上流の対雁で石狩川に合流していた。現在の河道は札幌市北部低地の泥炭層を掘削し新水路としたもので、昭和 2 年からの治水工事により、米里より下流の約 7 km を開削して河道を切り替え石狩川に合流させたものであり、昭和 16 年に通水し現在の姿となった。このため、下流部は直線的な流れとなっているが、河床勾配は $1/4,300$ 程度と緩く、中流部と異なりゆったりと流れながら石狩川に合流する。この区間の川幅は 350m、水面幅は 55～110m 程度であり、河床はシルト・砂から構成されている。河道は、単列砂州河道を呈しており、瀬・淵が点在している。



雁来橋 (KP6.80) 付近



石狩川合流点 (KP18.00) 付近

※写真出典：北海道開発局